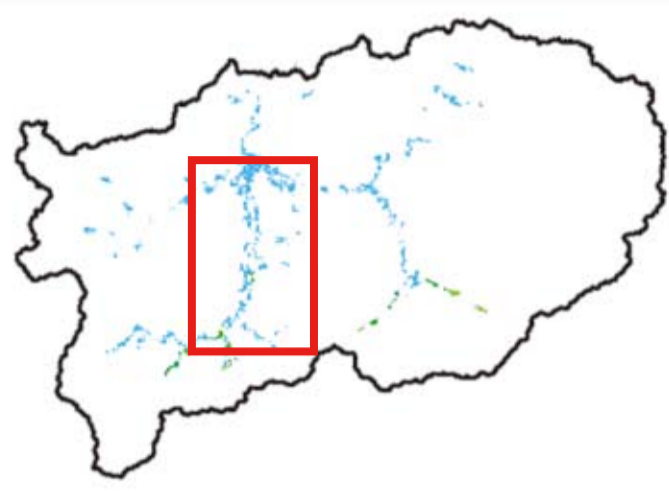


これは、**土師地区** 周辺のマップです。



山崎断層による地震が発生した場合の震度によって、地域の建物が全壊する確率を表しています。

このマップの活用方法

1. あなたが暮らす地域は何色ですか？ あなたの地域の全壊率を調べましょう。

凡例を見て、あなたや家族が暮らす家が建っている地域の全壊率を確認しましょう。

2. 地震に強い安全な家づくり・地域づくりのために、あなたと地域ができることを考えましょう。

地震に強い家と地域を目指して、家族や地域で話し合い、できることから始めましょう。

例) 耐震診断を受ける。耐震改修を行う。

- ・ブロック塀を補強する。
- ・家具の固定を行う。
- ・地区の危険箇所を話し合う。
- ・地区の連絡網を再確認する。など



凡例

| | | | |
|--------|--------|-----|-------|
| 危険度ランク | 全壊率 | 4 | 7~10% |
| 7 | 30%以上 | 3 | 5~7% |
| 6 | 20~30% | 2 | 3~5% |
| 5 | 10~20% | 1 | 3%未満 |
| --- | --- | --- | --- |
| --- | --- | --- | --- |
| --- | --- | --- | --- |
| --- | --- | --- | --- |

危険度マップの作り方と見方

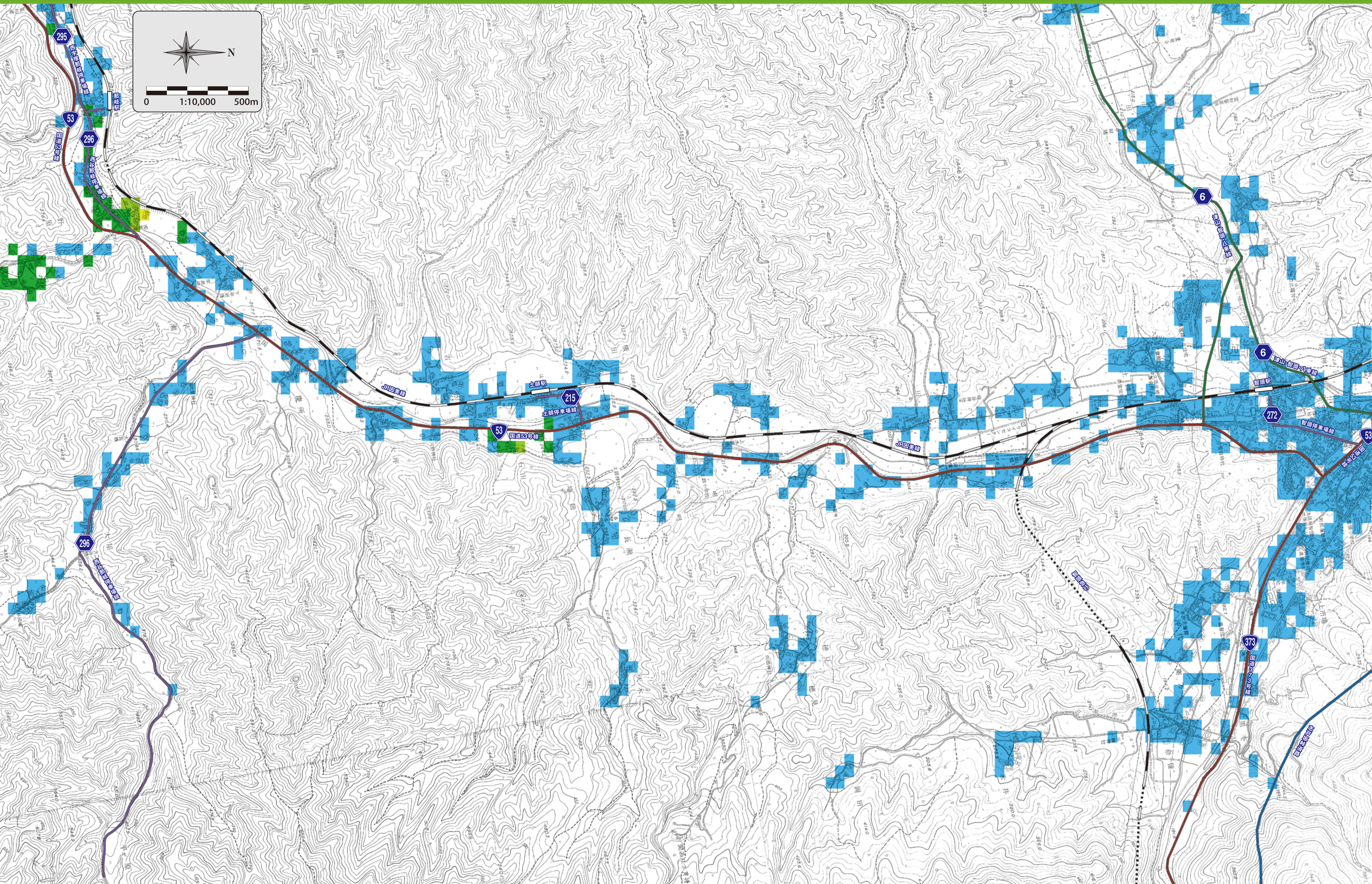
このマップは、智頭町を約50mの格子(メッシュ)に分け、山崎断層による地震の予測震度と、地域の建物の構造種別(木造・非木造)、及び建築年次(新旧の建物の割合)を考慮し、各メッシュにおける建物の全壊率を示したものです。個々の家の全壊率を示したマップではありません。

例) 全壊率20%とは

メッシュの中に5戸家がある場合



1つの格子(メッシュ)の中に5戸の家屋がある場合、1戸が全壊、残り4戸は半壊、もしくは一部損壊・無被害と予想されていることを示しています。全壊率が低い地域でも、強い地震によって多くの家屋がある程度被害を受けるおそれがあります。



平成20年7月作成

『全壊』とは？

災害に係る住家の被害認定基準運用指針、内閣府、東南海地震・南海地震等に関する専門調査会、中央防災会議を参照して作成

平成13年6月に国より『災害の被害設定基準』が定められ、台風や地震などの自然災害による建物の被害の中で「居住する上での危険な状態」を全壊とするとしています。

| 全壊 | 半壊 | 一部損壊 | 無被害 |
|--------------------------|--------------------------|-------------------------------------|---------------------|
| | | | |
| 住宅の全体、もしくは一部の階が全て倒壊している。 | 居住する上で一部支障をきたす状態を指しています。 | 壁面に亀裂が生じている。外装に若干の剝離がある等の状態を指しています。 | 被害が生じていない状態を指しています。 |

地震に強い家になろう。

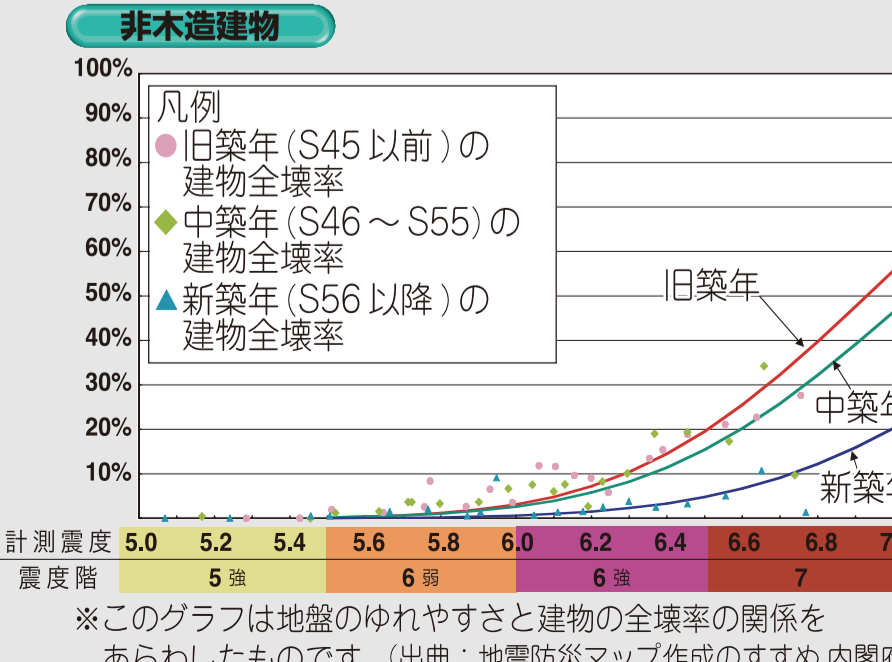
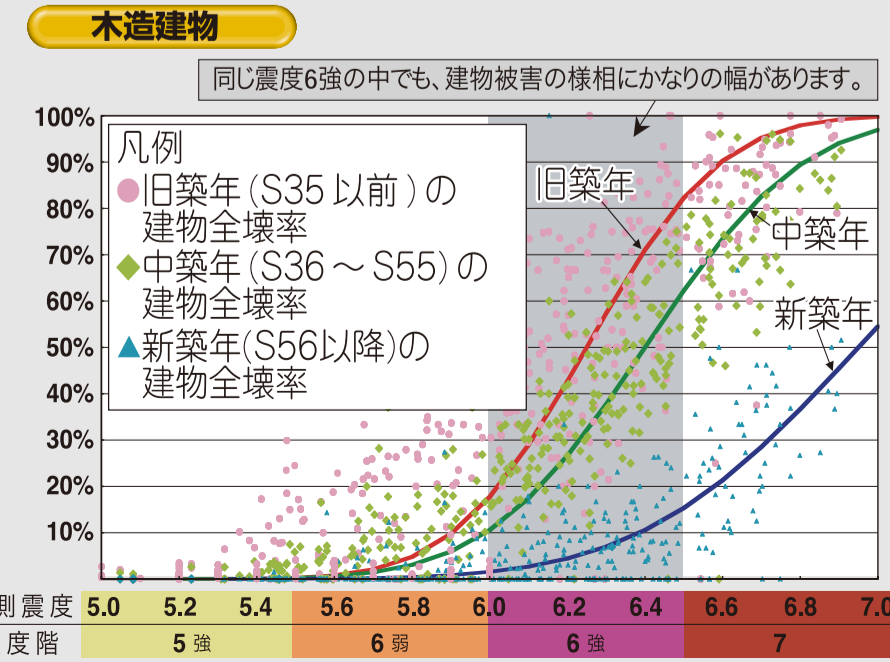
古い家は危ない！

右のグラフに示すように、昭和56年(新耐震基準)以前に建てられた古い建物で、耐震改修を行っていない建物は、倒壊する可能性が高くなります。

まずは、耐震診断を！

倒壊のおそれがある場合や不安を感じる場合は、専門家による耐震診断を受けましょう。

揺れの大きさと全壊被害の関係



お問合せ

智頭町
建設農林課

電話:
0858-75-4111

FAX:
0858-75-1193

E-mail:
kensetsu@town.chizu.tottori.jp